健康と信頼をお届けする
日清製粉グループ

2015年3月期
第2四半期決算説明会

2014年11月4日

株式会社日清製粉グループ本社

日清製粉グループ本社の大枝でございます。この度は、日清製粉グループ2015年3月期 第2四半期決算説明会に、多数の皆様のご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。資料に沿いまして、当社の状況を含めご説明申し上げます。

目　次

Ⅰ．小麦相場の状況

Ⅱ．TPPについて

Ⅲ．第2四半期（累計）実績、及び通期業績予想

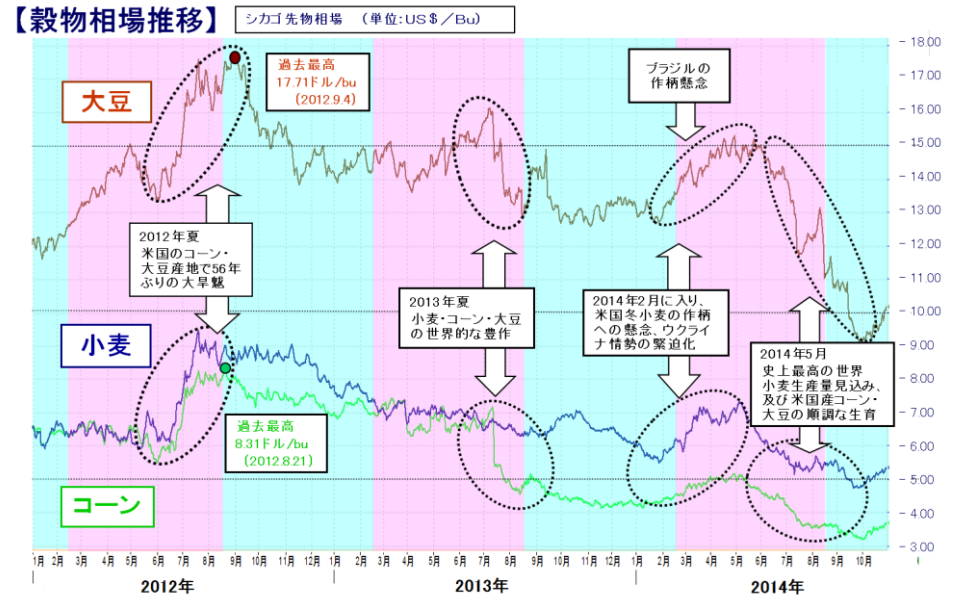
Ⅳ．中期経営計画の進捗と具体的成果

Ⅴ．利益配分について

Ⅰ．小麦相場の状況

小麦相場の状況①

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ



注）グラフの背景の色は、農水省の輸入小麦売渡価格算定期間ごとに色分けしている

3

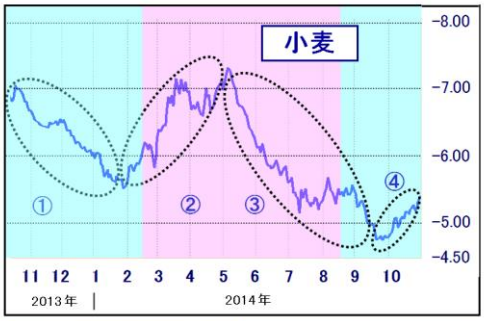
小麦相場の状況につきましては、今年は、小麦、コーン、大豆、それぞれが世界的豊作で需給が改善し、在庫の増加も見込まれており、5月以降、価格は下落基調で推移しています。

小麦相場の状況②

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

【最近の小麦相場の動向】

シカゴ先物相場　（単位:US$／Bu）







①2013年10月中旬以降：カナダや豪州での豊作（カナダは史上最高）、2014年産の米国冬小麦の順調な作付け等、世界的な小麦生産量の増加見通しから相場は下落基調で推移。

②2014年2月以降：米国冬小麦の乾燥・凍害による作柄悪化への懸念、及びウクライナ情勢の緊迫化から、相場は上昇に転じた。

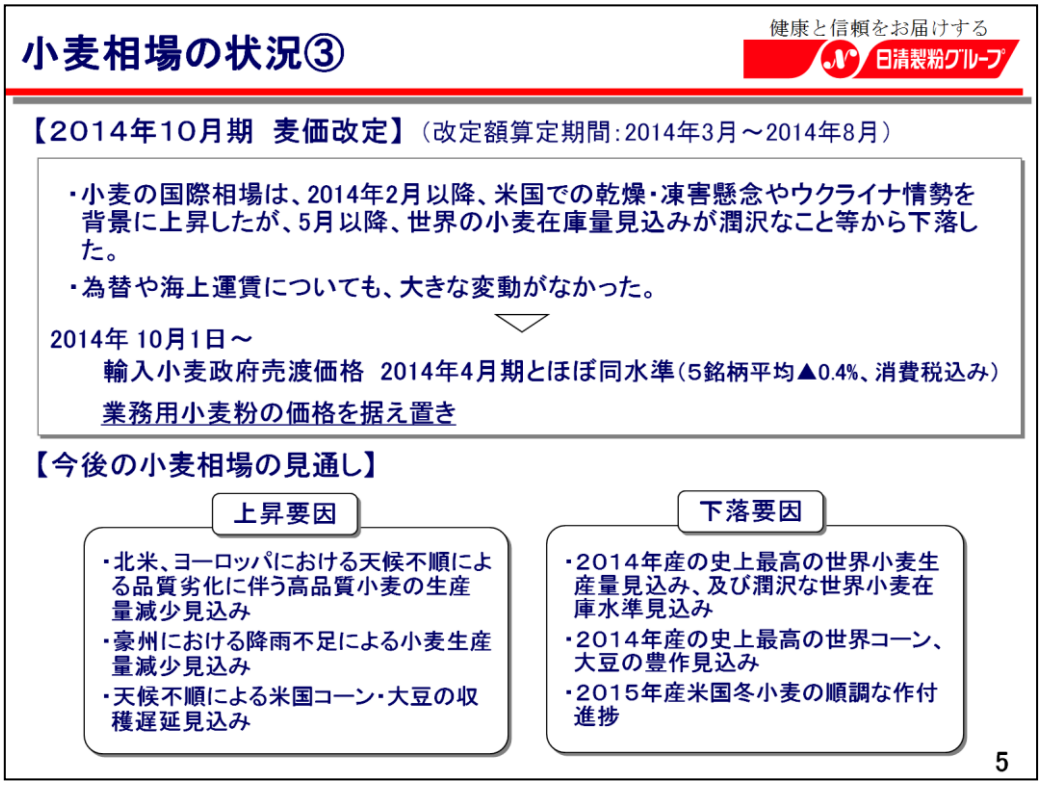
③5月以降：2014年産の史上最高の世界小麦生産量見込み、及び世界的に潤沢な小麦在庫水準見込みから、相場は下落基調に転じた。

④9月下旬以降：米国コーン・大豆の収穫遅延見込みから、小麦相場も上昇し、現在5ドル/bu前半で推移している。

4

小麦相場の直近の動きとしましては、世界の小麦生産量が史上最高と見込まれ、その結果、在庫水準が世界的に潤沢になるとの見込みから、価格は5月以降、下落基調で推移しました。9月下旬以降は、アメリカのコーン、大豆の収穫遅れが要因となり、1ブッシェル当り4ドル台であったものが、現在同5．30ドル辺りまで上昇しております。

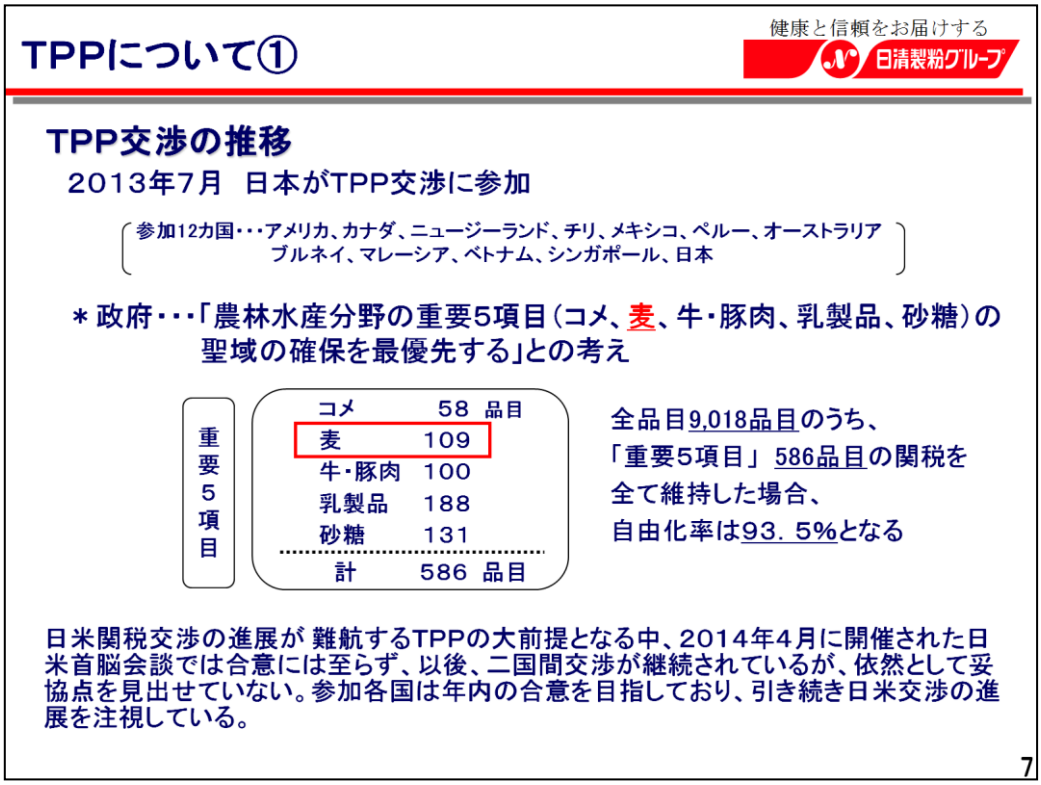
※小麦 1bu（ブッシェル）＝27．2kg



10月からの輸入小麦の政府売渡価格は、前回の4月期とほぼ同水準となりました。これを受け、当社としましては業務用小麦粉の価格据置きを発表し、現在、お客様への説明をおこなっているところです。

なお、来年の4月からの政府売渡価格については、価格改定の算定期間が本年の9月から来年の2月となります。既に9月、10月の2か月分の農水省の買い付けが終了しており、現時点ではほぼ横ばいという状況ですが、引き続き、今後の小麦相場、及び為替相場等の状況を注視していく必要があります。

Ⅱ．TPPについて



TPPにつきましては、年内合意を目指しているとされておりますが、現時点ではあまり進展はありません。

本日11月4日がアメリカ中間選挙であり、その結果によってはアメリカの交渉力という観点で影響がでてくること、また、11月10日・11日にAPEC首脳会議が北京で開かれますが、そこが年内合意の最後のチャンスであろうとも言われており、この交渉状況にも注視しております。

TPPについて②

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

TPP等の国際貿易交渉に対する視点

① 現在日本で使用されている小麦の9割は海外に依存しており、食料安全保障面で支障がないよう、国民の主要食糧である小麦の安定確保についての十分な検証が必要

② 小麦は幅広い食品の原料に使用されており、小麦生産者、製粉産業、食品産業、消費者、すべての段階での影響を踏まえた国境措置の整合性の維持が必要

⇩

当社グループは引き続き、国民の『健康で豊かな生活づくりに貢献する』ことを目指し、安全・安心な製品を安定的に生産・供給していくことと、将来に想定される海外の製粉会社及び海外からの輸入品との競争において、コスト面で勝ち抜けるコスト競争力の強化をスピード感を持って推進していく

8

TPP交渉に際しての当社の考え方として、ひとつは小麦が国民の主要食糧であることを踏まえ、安定確保についての十分な検証が必要であるということ、また、交渉の決着如何によって日本で製粉業が存続できないような仕組みとならないよう国境措置の整合性の維持が必要であるということを、常に主張してきました。

一方で、遠くない将来に原料小麦の制度が自由化されるということを睨んで、海外の製粉会社や海外からの輸入品との競争に対してコスト面でも勝ち抜ける体制が必要であると考えております。そのため、当社は中期経営計画に則って生産体制の再編を含めたコスト削減を前倒しで進めています。

Ⅲ．第2四半期（累計）実績、及び通期業績予想

続きまして、第2四半期の決算についてご説明します。

1．第2四半期（累計）実績

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

- 海外事業の拡大、及び国内業務用小麦粉、冷凍食品、中食・惣菜の出荷伸長等により増収（前年比＋3．2%）
- 拡販施策費の増加、原材料コストの上昇、及び製粉 福岡工場の減価償却費の増加等により減益 （営業利益 同 ▲16．5%、経常利益 同 ▲7．5%）
- 四半期純利益は増益（同＋0．7%）

（単位：百万円）	2015年3月期 第2四半期（累計）実績	業績予想	比	前年実績	比
売上高	246,946	253,000	▲2.4%	239,322	＋3.2%
海外売上高比率	13.8%	13.0%	―	11.3%	―
営業利益	8,601	9,900	▲13.1%	10,305	▲16.5%
経常利益	10,960	11,400	▲3.9%	11,845	▲7.5%
四半期純利益	7,172	7,700	▲6.9%	7,119	＋0.7%

※金額は百万円未満切り捨て

売上高は前年比＋3．2%の増収、営業利益は▲16．5%の減益、経常利益は▲7．5%の減益と厳しい結果となりました。

2. 2015年3月期 通期 業績予想①

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

下期は、出荷の拡大、生産性向上等のコスト削減、海外事業の拡大等に取組んでいくが、第2四半期連結累計期間の業績、並びに当社を取り巻く環境が厳しいことを踏まえ、通期業績予想を引き下げる

※金額は百万円未満切り捨て

（単位：百万円）	2014年3月期 実　績	2015年3月期 業績予想	前年差	前年比
売上高	495,930	530,000	＋34,069	＋6.9%
海外売上高比率	11.8%	15.8%	＋4.0%	―
営業利益	22,274	20,000	▲2,274	▲10.2%
経常利益	25,579	24,000	▲1,579	▲6.2%
当期純利益	15,098	15,200	＋101	＋0.7%

11

決算発表と同じタイミングで今期の通期業績予想を下方修正し、売上高を5,300億円、営業利益を200億円、経常利益を240億円と致しました。当初の業績予想に対しては、営業利益で▲25億円、経常利益で▲18億円の引き下げとなります。

2. 2015年3月期 通期 業績予想②

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

3ヵ年計画の取り止めについて

NNI-120

第2四半期連結累計期間の業績、及び引き続き不透明な外部環境を踏まえ、足元の業績回復・向上の確固たる土台を築くことが重要であると判断し、今回は、来年度からの新たな3ヵ年（2015～2017）計画の策定を取り止め、平成27年度は単年度の経営計画のみを策定し、これに注力する。あわせて、既に策定した3ヵ年（2014～2016）計画の数値目標についても取り止めることとする

12

また通期業績予想の修正と併せまして、中期経営計画についても、資料に記載の通り公表を致しました。

今回は、2015年度から2017年度までの新たな3ヵ年計画の策定を取り止めます。そして、来年度は単年度の経営計画のみを策定し、これに注力していくこととします。また、既に策定をしております2014年度～2016年度の3ヵ年計画につきましても取り止めることとしました。

上期の業績が厳しいことを認識し、足元の業績回復に最優先で注力していきたいと考えております。そのため、3ヵ年ではなく単年度の経営計画を策定し、これに注力することで今年の下期から来年へつなげていくことに集中し、成果を出していきたいと思っています。

2. 2015年3月期 通期 業績予想③

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

下期の業績回復に向けた具体的施策

NNI-120

＜製粉事業＞

- シェアアップの推進、及び拡販施策費の効率的な使用
- 福岡新工場への生産集約を含めたコスト競争力の強化
- ミラー・ミリング社等のPMI（経営統合施策）推進

＜食品事業＞

- プレミアム新製品の積極的な市場投入による収益力向上
- 成長を続ける冷凍パスタの効果的な販促施策による出荷拡大
- コストに見合った適正な利益確保（価格改定等）
- 開発、購買、生産、物流等のコストダウン実行
- 10月から稼働したベトナム新工場の活用によるパスタソースのコスト競争力の強化

13

続きまして、当社が下期の業績回復に向けて具体的に取組んでいく施策をご説明します。

製粉事業においては、シェアアップを引き続き推進していきますが、一方で拡販施策費については、効率的・効果的に優先順位をつけ使用していくこととし、もう一度、当社の基本である価値営業（ユーザーとのコミュニケーション）に立ち返って拡販に取り組みます。また、ミラー・ミリング社が5月に買収した4工場では、必要な設備改修を進めるとともに、販売を拡大し工場の稼働を高め、少しでも前倒しで成果を出していきたいと考えています。

食品事業につきましては、主として当社の付加価値を評価していただけるプレミアム新製品を積極的に投入し、収益力の向上を図っていきます。また、家庭用冷凍パスタについては、シェアは着実に上がっている一方で販促のコストがかかっており、販売促進施策を効果的に実行しながら、シェアアップに取り組んでいきます。3点目ですが、為替相場の変動等により原材料費が上昇傾向にある中、コストに見合った適正な利益確保が必要と考えています。先日、日清フーズがパスタの価格改定を発表しましたが、このように必要な価格改定を行って、適正な利益を確保できるようしっかり取り組んでいきたいと思っています。

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

中期経営計画の基本戦略

NNI-120

基本戦略	主な施策
1. トップライン（売上高）の拡大と海外事業の拡大を最優先戦略と位置付け、重点分野に経営資源を集中的に投入	■国内の出荷拡大による利益増加 ・製粉シェアアップ ・成長分野（中食・惣菜、冷食他）の出荷拡大
2. コア事業の基盤強化と、成長分野の積極的拡大	■海外事業の拡大 ・製粉、プレミックス、パスタ関連、医薬品原薬他
3. M&A、アライアンスをスピード感を持って積極的に実行	■新規M&A、アライアンス ・製粉、プレミックス、加工食品、ベーカリー関連事業他
4. 安全・安心な製品を生産・供給するとともに、コスト競争力の確保・強化に取り組む	■コストダウン ・国内製粉工場の臨海大型工場への生産集約 ・海外生産拠点の活用（トルコ、ベトナム他）

先ほど2015年度から2017年度の3ヵ年計画の策定は取り止めるとご説明しましたが、2020年までの9年間を見据え2012年度にスタートした中期経営計画「NNI－120、スピードと成長、拡大」については、「トップライン（売上高）の拡大」と「海外事業の拡大」の2つを旗印とする基本戦略に一切変更はなく、従来通りスピード感をもって着実に進めていきます。

健康と信頼をお届けする
日清製粉グループ

Ⅳ. 中期経営計画の進捗と具体的成果

NNI-120

15

続きまして、中期経営計画の施策の進捗状況についてご説明いたします。

1．国内製粉工場の生産集約①

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

将来に想定される海外の製粉会社及び海外からの輸入品との競争に勝ち抜けるコスト競争力の強化を図り、臨海大型工場への生産集約を加速

（※生産能力は原料小麦ベース）

福岡新工場（福岡市）



・2014年2月に稼働後、九州全域を中心に小麦粉を供給、シェア拡大を目指す

・小規模な内陸2工場（鳥栖工場・筑後工場）を閉鎖（600ﾄﾝ/日）

■生産能力　：　550ﾄﾝ/日（2ライン）

■設備投資額：約100億円

知多工場新ライン（愛知県知多市）



・2013年10月着工、2015年5月完工予定

・新ライン稼働後、知多工場の全生産能力は、660ﾄﾝ/日から980ﾄﾝ/日に拡大

・併せて内陸の名古屋工場の一部ライン（380ﾄﾝ/日）を停止予定

■生産能力　：　320ﾄﾝ/日（1ライン）

■設備投資額：約60億円

16

まず、国内製粉工場の生産集約につきましては、福岡新工場が本年2月に稼働しました。現在は愛知県の知多工場で新ラインの建設を順調に進めています。

1．国内製粉工場の生産集約②
～ 原料小麦サイロの収容力増強 ～

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

東日本、西日本で当社最大の生産能力を持つ鶴見工場・東灘工場において、原料小麦サイロの収容力増強を推進

- 需要に即した原料小麦の安定的な確保
- 主力工場と一体となった効率的なサイロ運営

鶴見工場

- 着工　：2015年3月予定
- 完工　：2016年6月予定
- 総収容力（増設後）：131,000ﾄﾝ
- 増設収容力　　：26,000ﾄﾝ
- 設備投資額：約35億円



鶴見工場

東灘工場（阪神サイロ㈱を増設＊）

- 着工　：2014年5月
- 完工　：2015年4月予定
- 総収容力（増設後）：105,000ﾄﾝ
- 増設収容力　　：20,000ﾄﾝ
- 設備投資額：約16億円



阪神サイロ㈱

＊阪神サイロ㈱は東灘工場に原料小麦を供給するサイロ会社で当社連結子会社　17

次に原料小麦を収容するサイロに関する取組みですが、当社の主力工場である鶴見工場のサイロと東灘工場に隣接する阪神サイロ㈱において、それぞれ収容力の増強工事を行っております。

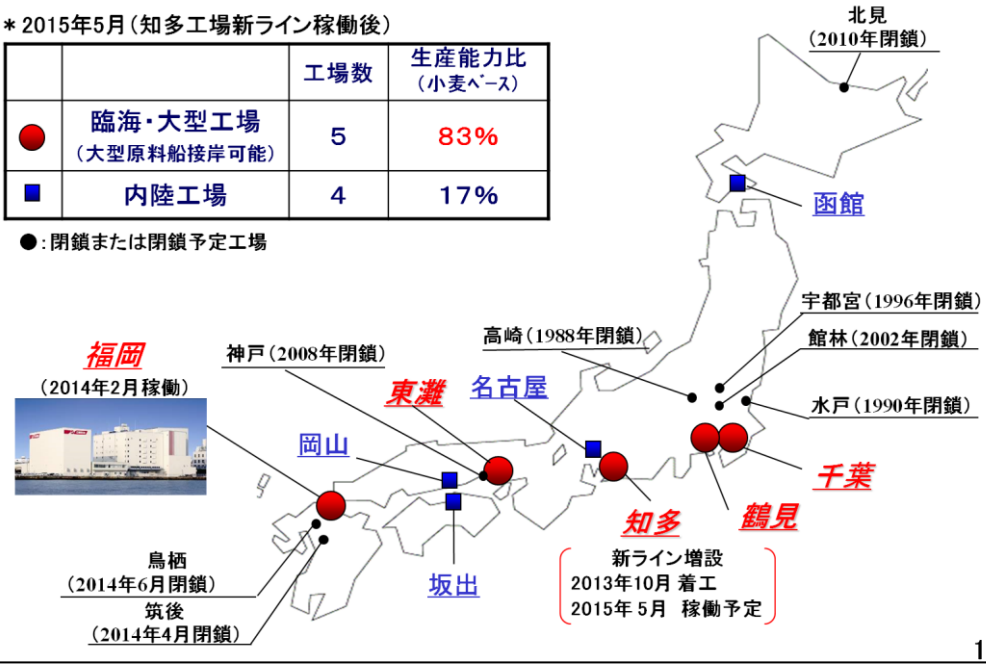
1．国内製粉工場の生産集約③

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

＊2015年5月（知多工場新ライン稼働後）

		工場数	生産能力比（小麦ベース）
●	臨海・大型工場（大型原料船接岸可能）	5	83%
■	内陸工場	4	17%

●：閉鎖または閉鎖予定工場



この図では、当社の国内製粉工場の生産集約の状況を示しておりますが、臨海大型工場の生産能力比率は、全体の80％を超えるまでになりました。

2. 海外事業の拡大(製粉)①

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

ミラー・ミリング・カンパニーLLC(以下ミラー・ミリング社)の事業拡大

(※括弧内は生産能力で原料小麦ベース)

2012年3月 ■*ミラー・ミリング社を買収し米国小麦粉市場に進出* (1,730トン/日)

2013年2月 ■生産能力 を510トン/日(約30%)増強 (2,240トン/日)

7月 ■ウィンチェスター工場で、110輌のシャトルトレインによる原料搬入設備の建設に着手(2014年末稼働予定)



2014年3月期の年間出荷数量は約20%増と大幅伸長し、今期も好調を持続

2014年5月 ■***米国内 製粉4工場取得***

4工場生産能力 : *3,660トン/日*

取得額 : *215百万米ドル(約221億円)*

4工場取得の意義
- 「NNI−120」の海外事業拡大戦略に基づき成長を加速
- 米国製粉業界の合従連衡の進展により、ミラー・ミリング社としてさらなる成長の必要性
- 原料小麦の種類・品種、生産地域等が多様化することで、これまで以上に幅広く原料情報やノウハウの習得等が可能になる

続きまして、ミラー・ミリング社の状況について、簡単にご説明します。

当社は2012年3月にミラー・ミリング社を買収しました。その後、ミラー・ミリング社の生産能力を増強し、さらに今年の5月には、約221億円で米国内に新たな4つの製粉工場を取得しました。

2. 海外事業の拡大(製粉)②

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

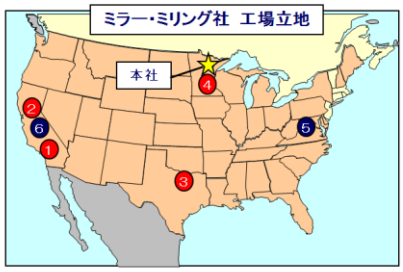
ミラー・ミリング社　製粉4工場の買収とPMI(経営統合施策)の推進

■4工場の取得により、生産能力が5,900ﾄﾝ/日となり、*全米で第4位*に躍進
■2工場体制から6工場体制への業容拡大に合わせ*PMI(経営統合施策)を推進*し、買収効果の最大化を目指す

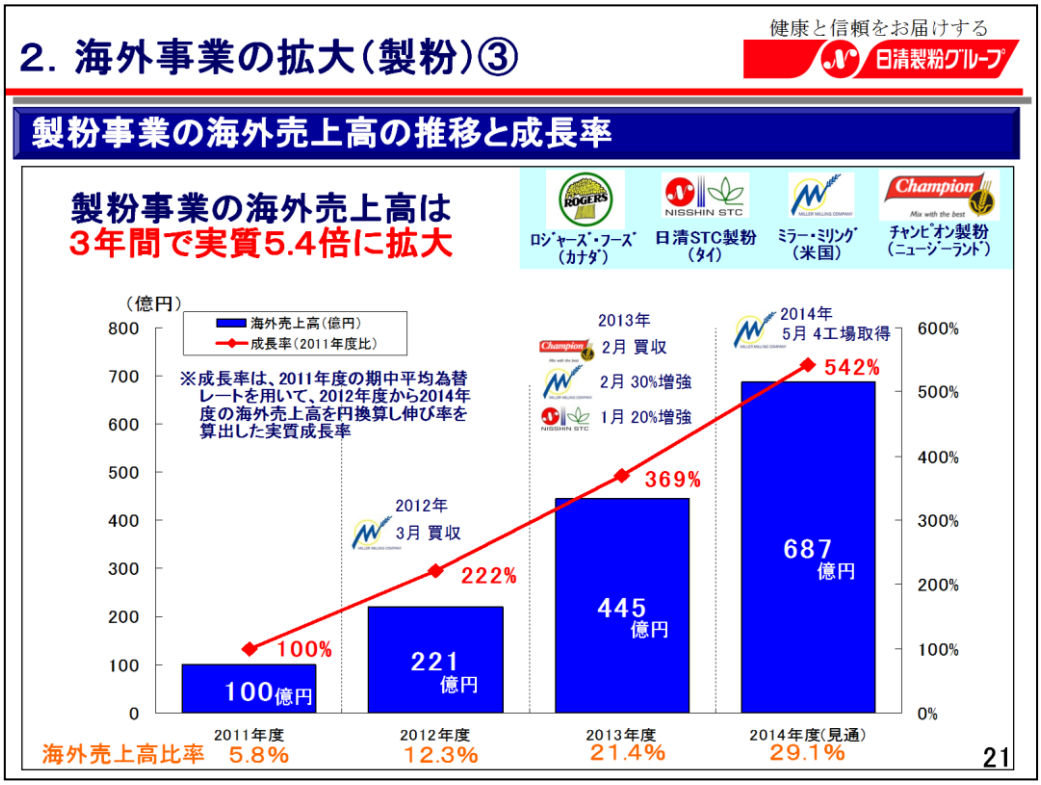
＜PMIの取組み内容＞
・顧客や取引先等の承継、ITシステム整備、生産管理・品質管理機能の強化
・売上拡大に向けた販売戦略の策定、技術スタッフによる顧客サポートの取組み、新たに採用した営業担当者を中心に新規拡販を実施
・グループ会社とのシナジー

			生産能力(ﾄﾝ/日)
新規取得	①	ロサンゼルス工場(ｶﾘﾌｫﾙﾆｱ州)	780
	②	オークランド工場(　〃　)	880
	③	サギノー工場(ﾃｷｻｽ州)	880
	④	ニュープラーグ工場(ﾐﾈｿﾀ州)	1,120
既存	⑤	ウィンチェスター工場(ﾊﾞｰｼﾞﾆｱ州)	1,640
	⑥	フレズノ工場(ｶﾘﾌｫﾙﾆｱ州)	600

(※生産能力は原料小麦ベース)　*計　5,900ﾄﾝ/日*



4工場を取得した結果、ミラー・ミリング社は、2工場体制から6工場体制となり、原料小麦ベースで1日当たり5，900トンの生産能力を持つ全米第4位の製粉会社となりました。



この資料は製粉事業の海外売上高の推移を整理したものです。2011年度の製粉事業の海外売上高は100億円でしたが、2014年度の見通しでは687億円となっています。海外売上高比率で見ると5．8%から29．1%となり、来年度は確実に30%を超えてくる見通しです。また、2011年度の為替レートを用いて2012年度から2014年度の海外売上高を円換算した実質的な伸び率を見ますと、3年間で約5．4倍となっており、製粉事業の海外事業拡大は、想定を上回って進んでいます。

また、当社は海外4か国に製粉会社を持っていますが、これらを平均すると現状の利益率は国内の製粉事業を上回っております。従って海外事業が伸びていくことで、当社の利益率は高まっていくものと考えています。

3. 海外事業の拡大(加工食品)①

ベトナム日清製粉 新工場竣工

日本向けの供給拠点並びに将来的なASEAN地域の市場開拓を目的に、ベトナムに現地法人を設立。2014年10月にパスタソース等の調理加工食品の生産工場が竣工

- 会社名:ベトナム日清製粉 Co.,Ltd. ❶
- 事業内容:パスタソース等レトルト食品の製造・販売
- 工場設備投資額:約15億円





❷タイ日清製粉Co.,Ltd.
(1989年操業開始)

これまでパスタソース等の調理加工食品の生産拠点は国内とタイ日清製粉であったが、今後はベトナム日清製粉を加えた3拠点体制となる

3. 海外事業の拡大(加工食品)②

トルコ日清製粉A.S.の設立

トルコにパスタの製造販売会社を設立
生産体制を強化し、パスタの世界展開を加速する

- 会社名　：トルコ日清製粉A.S.
- 出資比率
  当社ｸﾞﾙｰﾌﾟ:51%、丸紅㈱:25%、ヌフン・アンカラ社:24%(トルコ最大のﾊﾟｽﾀﾒｰｶｰ)
- 事業内容：パスタの製造販売
- 工場稼働：2015年4月予定
- 設備投資額:約24億円



トルコ共和国
- 世界第3位のデュラム小麦の産地
- 欧州、中東、アジア、ロシアアフリカへの供給拠点

パスタの生産拠点
日本・米国(ﾒﾀﾞﾘｵﾝ・ﾌｰｽﾞInc.)・トルコの3拠点体制

プレミックス事業の拡大

ASEAN地域でのﾌﾟﾚﾐｯｸｽ事業の拡大を目的に、タイ日清テクノミックCo.,Ltd.の生産能力を25%増強し、インドネシアに販売会社を設立

タイ日清テクノミック Co.,Ltd.
- 能力増強：6,000ﾄﾝ/年(設備投資額:約2億円)
  (26,000ﾄﾝ/年→32,000ﾄﾝ/年)
- 製造品目：ﾍﾞｰｶﾘｰﾐｯｸｽ、ﾌﾞﾚｯﾀﾞｰ、ﾊﾞｯﾀｰﾐｯｸｽ他
- 稼働　：2014年末

PT.インドネシア日清テクノミック
- 業務用プレミックスの販売会社
- 2013年4月事業開始



＜業務用プレミックスの海外拠点＞
❶タイ日清テクノミック Co.,Ltd.
❷新日清製粉食品(青島)有限公司
❸PT.ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ日清ﾃｸﾉﾐｯｸ[販売]

4. 冷凍食品事業の強化

マ･マーマカロニ㈱神戸工場に冷凍食品工場を建設し、
成長を続ける冷凍パスタ事業の更なる成長・拡大を図る

マ･マーマカロニ㈱ 神戸工場 冷凍食品工場

- 生産品目　：　冷凍パスタ
- 工場稼働　：　2015年5月予定
- 設備投資額　：　約28億円
- 生産能力　：　5,200万食/年

トルコ日清製粉A.S.の稼働により、マ･マーマカロニ㈱神戸工場のパスタの生産が停止するのに伴い、同工場に新たに冷凍食品工場を建設する予定。

冷凍パスタ
- 日清フーズ㈱は1993年に家庭用冷凍食品市場に参入
- 以来、冷凍パスタのリーディングカンパニーとして、「マ･マー」「青の洞窟」等のブランドにより冷凍パスタ市場を創造し、市場の発展を牽引
- 近年では「弾む生パスタ」シリーズ等のヒットもあり、大幅売上げ伸長を続ける



Ⅴ．利益配分について

当社の利益配分についてご説明いたします。

利益配分について

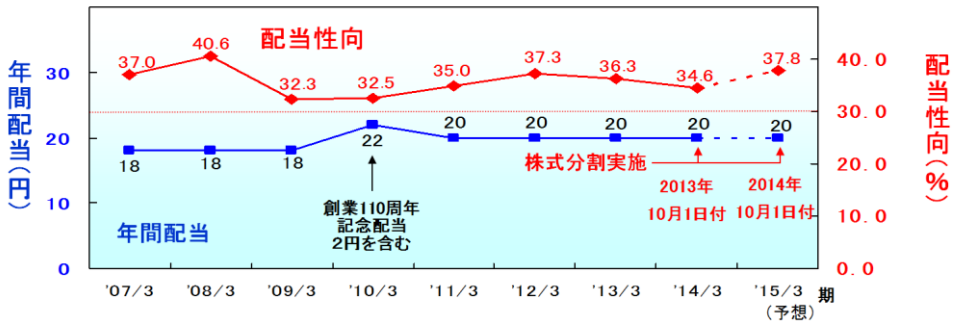
健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

利益還元の強化に向けた継続的な取り組み

■株主の皆様への利益還元、及び流動性の向上を目的とした株式分割の実施

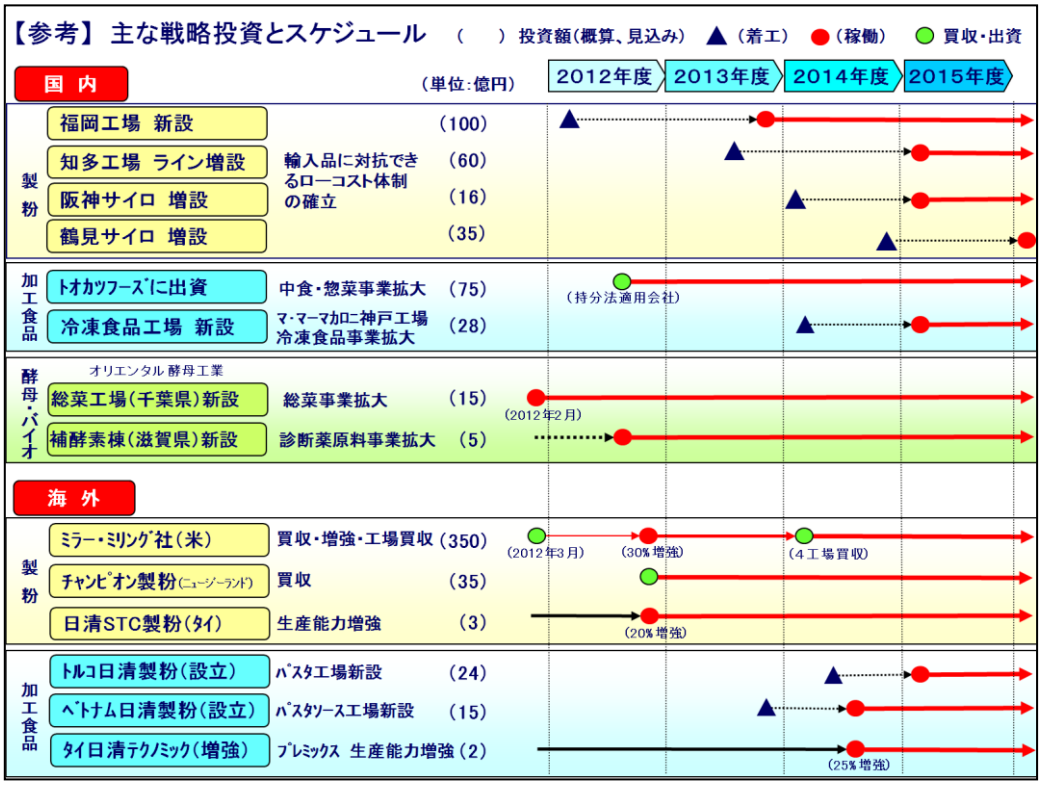
2年連続で1株につき1．1株の割合をもって株式分割を実施。分割に伴う配当金の調整は行わず実質増配となる予定 （2013年10月1日付け、2014年10月1日付け）

■成長、拡大に向けた戦略投資への配分を行い将来の企業価値を高めていくと同時に、現在及び将来の収益状況及び財務状況を勘案し、最適な利益還元策を積極的、且つ機動的に行っていく



直近の状況としましては、当社は2年連続で1株に付き1．1株の割合で株式分割を実施しました。分割に伴う配当金の調整を行いませんでしたので、実質増配となります。

また、利益配分に関する当社の基本的な考え方としまして、増配、株式分割、自己株式の取得といった手法の中から、その時点時点で、当社が最適と考える利益還元策を今後も機動的に行っていきたいと考えています。



この資料は主な投資の内容になります。2012年から約2年半で約760億円の戦略投資を行ってきました。中期経営計画をスタートしてから、当社としては、投資の枠をかなり増やしており、従来のベースと比較すると2倍～3倍近い投資を行ってきております。

最後に繰り返しになりますが、第2四半期の決算発表では、同時に通期の業績予想を下方修正し、併せて、今回は2015年度～2017年度の新たな3ヵ年計画の策定を取り止めることを発表致しました。

私としましては、この中間決算で皆様のご期待に十分お応えできず残念であると同時に申し訳なく思っております。当社がやるべきこととしては、この下期の戦略・施策を遅れず着実に実行していくことが最も大事だと思っており、この度の減益を謙虚に認めて受け止め、通期の業績予想の達成に向け取り組んで行きたいと考えています。

記載内容に関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。